

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 答え：む（意志）

解説：「行か」未然＋「ん」（＝む）。主語が「我れ」（1人称）で文末なので意志。「私は行こう」。

Q2. 答え：らむ（現在推量）

解説：「降る」終止＋「らん」（＝らむ）。「都に雪が降っているだろう」。

Q3. 答え：けむ（過去推量）

解説：「苦しみ」連用＋「けん」（＝けむ）。「いかに（どんなに）」は程度をたずねる語で、わけを問う語ではないので過去推量。「昔の人は、どんなに苦しんだであろう」。

Q4. 答え：願望の終助詞「なむ」

解説：「降ら」（四段未然形）＋「なん」（＝なむ）。未然形に付く「なむ」は、他に対する願望の終助詞。「雨が降ってほしい」。

Q5. 答え：む（勧誘）

解説：「来（こ）」（カ変未然形）＋「ん」＋念押しの終助詞「かし」。話しかけている相手「君」（2人称）を「もろともに（いっしょに）」と誘っているので勧誘。「あなたもいっしょに来ないか」。

Q6. 答え：らむ（原因推量）

解説：「など」（どうして）＋「散る」（四段終止形）＋「らん」。目の前で花が散っているわけを推し量るので原因推量。「どうして花が散っているのだろう」。

Q7. 答え：けむ（過去推量）

解説：「あり」（ラ変連用形）＋「けん」（＝けむ）。「けむ」は連用形に付く。「いかに（どのように）」は様子をたずねる語で、わけを問う語ではないので過去推量。「昔の都は、どのようであったのだろう」。

Q8. 答え：む（意志）

解説：「帰ら」（四段未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は早く帰ろう」。

Q9. 答え：らむ（現在推量）

解説：「いかに」（疑問副詞）＋サ変「す」終止形＋「らん」。「今ごろどうしているだろう」。

Q10. 答え：けむ（過去推量）

解説：「思ひ」連用＋「けん」。「昔の人は何を思ったのだろう」。

Q11. 答え：む（意志）

解説：「仕うまつら」未然＋「ん」。「お仕えしよう」。

Q12. 答え：らむ（現在推量）

解説：「住む」終止＋「らん」（＝らむ）。「月の都の人は、今どう住んでいるのだろう」。

Q13. 答え：けむ（過去推量）

解説：「生き」連用＋「けん」。「私の祖はどう生きたのだろう」。

Q14. 答え：む（推量）

解説：「過ぎ」（上二段「過ぐ」未然形）＋接続助詞「ば」は仮定条件（もし～ならば）で、「ん」とは別のもの。「嘆か」（四段「嘆く」未然形）＋「ん」は文末で、主語が「人皆」（3人称）なので推量。「春が過ぎたら、人は皆嘆くだろう」。

Q15. 答え：らむ（現在推量）

解説：「ある」（ラ変連体形）＋「らん」（＝らむ）。「らむ」は終止形に付くが、ラ変型の語には連体形に付く。「いかなる（どんな）」は中身をたずねる語で、係助詞「か」の結びで連体形。「海の向こうには、どんな国があるのだろう」。

Q16. 答え：けむ（過去推量）

解説：「栄え」連用＋「けん」。

Q17. 答え：む（推量）

解説：「語ら」（四段未然形）＋「ん」。係助詞「ぞ」の結びで連体形。主語が「かの翁」（3人称）なので推量。「このことは、あの老人が語るだろう」。

Q18. 答え：らむ（現在推量）

解説：「来（き）」（カ変連用形）＋完了「ぬ」終止形＋「らん」。係助詞「や」（疑問）の結びで連体形。「春が来てしまっているだろうか」。

Q19. 答え：けむ（婉曲）

解説：「住み」（四段連用形）＋「けん」（＝けむ）＋体言「所」。体言の前の「けむ」は婉曲（伝聞）。「この寺は、昔、聖（徳の高い僧）が住んでいたとかいう所である」。

Q20. 答え：む（意志）

解説：「いざ」（さあ）＋「参ら」（四段未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「さあ、私がまず参上しよう」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 答え：む（婉曲）

解説：「行か」未然＋「ん」（連体形）が体言「人」を修飾するので婉曲。「行くような人を待つ」。

Q22. 答え：らむ（現在推量）

解説：「咲き」（四段連用形）＋完了「ぬ」終止形＋「らん」。「らむ」は終止形に付くので、この「ぬ」は完了の終止形。見えない都の今を推し量る。「都では、もう桜が咲いてしまっているだろう」。

Q23. 答え：けむ（過去推量）

解説：「言ひ」連用＋「けん」。「昔の人もこう言ったのだろう」。

Q24. 答え：む（婉曲）

解説：「降ら」（四段未然形）＋「ん」（連体形）が体言「夜」を修飾するので婉曲。文末の「寒からん」の「ん」は推量。「雪が降るような夜は寒いだろう」。

Q25. 答え：らむ（現在推量）

解説：「過ぐす」終止＋「らん」。「私の思う人は、どう過ごしているだろう」。

Q26. 答え：けむ（過去推量）

解説：「帰り」連用＋「けん」。「いかに（どのように）」は様子をたずねる語で、わけを問う語ではないので過去推量。「雪深い道を、どう帰ったのだろう」。

Q27. 答え：む（意志）

解説：「任せ」（下二段「任す」未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は、このことをおまえに任せよう」。

Q28. 答え：らむ（現在推量）

解説：「語らふ」（四段終止形）＋「らん」。「何をか」は中身をたずねる語で、係助詞「か」の結びで連体形。見えない都の今を推し量る。「都の友人たちは、何を語り合っているのだろう」。

Q29. 答え：けむ（過去推量）

解説：「思し」（尊敬連用）＋「けん」。「大臣はどうお思いになったのだろう」。

Q30. 答え：前の「ん」＝む（婉曲）／後の「ん」＝む（意志）

解説：「あら」（ラ変未然形）＋「ん」（連体形）＋体言「限り」で婉曲。「励ま」（四段未然形）＋「ん」は文末で、主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は、力のあるかぎり励もう」。

Q31. 答え：らむ（現在推量）

解説：「聞こゆ」（下二段終止形）＋「らん」。自分には聞こえない、離れた所の今を推し量る。「あの里でも、鳥の声が聞こえているだろう」。

Q32. 答え：けむ（過去推量）

解説：「残し」連用＋「けん」。「何を」は中身をたずねる語で、わけを問う語ではないので過去推量。「昔の賢い人々は、何を後の世に残したのだろうか」。

Q33. 答え：む（意志）

解説：「詠ま」未然＋「ん」。「歌を詠もうと思う」。

Q34. 答え：らむ（現在推量）

解説：「残る」（四段終止形）＋「らん」。係助詞「や」（疑問）の結びで連体形。見えない奥山の今を推し量る。「奥山には、まだ雪が残っているのだろうか」。

Q35. 答え：けむ（過去推量）

解説：「あり」連用＋「けん」。「古き世にはどんな約束があったのだろうか」。

Q36. 答え：む（婉曲）

解説：「言は」（四段未然形）＋「ん」（連体形）＋体言「こと」。体言の前の「ん」は婉曲。「人が言うようなことにも気がねしない」。

Q37. 答え：らむ（現在推量）

解説：「吹く」終止＋「らん」。「心づくしの秋風は、どう吹いているだろう」。

Q38. 答え：けむ（過去推量）

解説：「あきれ」（下二段連用）＋「けん」。「人々は、どんなにあきれたであろう」。

Q39. 答え：む（意志）

解説：「こもら」（四段「こもる」未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は山深くこもろう」。

Q40. 答え：らむ（現在推量）

解説：「照る」終止＋「らん」。「都の月は、今宵照っているだろう」。

Q41. 答え：けむ（過去の原因推量）

解説：「あり」（ラ変連用形）＋「けん」。「けむ」は連用形に付く。「何ゆゑに（どうして）」とわけを問う語と結ぶので過去の原因推量。「どうして、このようなことがあったのだろうか」。

Q42. 答え：む（意志）

解説：「討た」（四段未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は必ず父の仇を討とう」。

Q43. 答え：らむ（現在推量）

解説：「借る」終止＋「らん」。「どこで宿を借りているだろう」。

Q44. 答え：けむ（過去推量）

解説：「侍り」（ラ変連用形・丁寧の補助動詞）＋「けん」。「心強く」は形容詞「心強し」（気丈だ）の連用形。わけを問う語がないので過去推量。「その人は、たいそう気丈でございましたでしょう」。

Q45. 答え：む（婉曲）

解説：「見」（上一段未然形）＋「ん」（連体形）が体言「人」を修飾するので婉曲。「月を見るような人は、出ていらっしやい」。

Q46. 答え：らむ（婉曲）

解説：「来鳴く」（四段終止形）＋「らん」（連体形）が体言「鳥」を修飾するので婉曲。「私の家に来て鳴いているような鳥は何だろう」。

Q47. 答え：けむ（過去推量）

解説：「学び」連用＋「けん」。「古の聖人は、どう学んだのだろう」。

Q48. 答え：む（仮定）

解説：「心強から」（形容詞「心強し」カリ活用の未然形）＋「ん」（連体形）＋助詞「には」。助詞の前の「ん」は仮定。「もし気丈であるならば、恐れるべきことはない」。

Q49. 答え：らむ（現在推量）

解説：「ある」（ラ変連体）＋「らん」（＝らむ）。「らむ」はラ変型の語には連体形に付く。「故郷のことは、今どうなっているのだろう」。

Q50. 答え：けむ（過去推量）

解説：「過ぐし」連用＋「けん」。「古の友はどう過ごしただろう」。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：む（意志）

解説：「打ち向かは」（ハ行四段「打ち向かふ」未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は兵を率いて立ち向かおう」。

Q52. 答え：らむ（現在推量）

解説：「布く」終止＋「らん」。「敵はもう陣を敷いているだろう」。

Q53. 答え：けむ（過去推量）

解説：「し」（サ変連用）＋「けん」。「先陣はどうしたのだろう」。

Q54. 答え：願望の終助詞「なむ」

解説：「おはせ」未然＋「なん」。「お身体も無事でいらしてほしい」。

Q55. 答え：む（勧誘）

解説：「参ら」（四段未然形）＋「ん」＋「や」。話しかけている相手（童＝2人称）に「～しないか」と問いかけて誘っているのが勧誘。「こちらへ参上しないか」。

Q56. 答え：らむ（現在推量）

解説：「す」終止＋「らん」。「あら、何の音がしているのだろう」。

Q57. 答え：けむ（過去推量）

解説：「寒かり」（形容詞「寒し」のカリ活用連用形）＋「けん」。「いかばかり（どれほど）」は程度をたずねる語で、わけを問う語ではないので過去推量。「雪の山道を越えた人は、どれほど寒かったことだろう」。

Q58. 答え：む（意志）

解説：「惜しま」（四段未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は、命よりも名（名誉）を惜しもう」。

Q59. 答え：らむ（現在推量）

解説：「おはす」終止＋「らん」。「主君は今どこにいらっしゃるのだろう」。

Q60. 答え：けむ（過去推量）

解説：「泣き」連用＋「けん」。「都を出た時、どんなに泣いたであろう」。

Q61. 答え：む（意志）

解説：「語ら」（四段未然形）＋「ん」＋接続助詞「ものを」（～のに）。「ものを」の前は文の切れ目なので主語の人称で決め、主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私はもう少し話そうと思うのに、人々はみな帰ってしまった」。

Q62. 答え：らむ（現在推量）

解説：「給ふ」終止＋「らん」。「いづくにてか（どこで）」は場所をたずねる語で、係助詞「か」の結びで連体形。尊敬は「せ給ふ」のはたらきで、「らむ」に尊敬の意味はない。「どこでお泊まりになっているのだろう」。

Q63. 答え：けむ（過去推量）

解説：「思ひ」連用＋「けん」。「どんなに心細く思っただろう」。

Q64. 答え：む（婉曲）

解説：「せ」（サ変未然形）＋「ん」（連体形）が体言「人」を修飾するので婉曲。「お供するような人は名乗り出よ」。

Q65. 答え：らむ（原因推量）

解説：「濡る」（下二段終止形）＋「らん」。「なぞ（どうして）」とわけをたずね、目の前の「袖が濡れている」ことのわけを推し量るので原因推量。「降らぬ」の「ぬ」は打消「ず」の連体形。「雨も降らないのに、どうして袖が濡れているのだろう」。

Q66. 答え：けむ（過去推量）

解説：「悟り」連用＋「けん」。「古の聖人は何を悟っただろう」。

Q67. 答え：む（婉曲）

解説：「起こさ」（四段未然形）＋「ん」（連体形）が体言「ため」を修飾するので婉曲。「軍を起こすためである」。

Q68. 答え：らむ（現在推量）

解説：「傾く」終止＋「らん」。「月は今西に傾いているだろう」。

Q69. 答え：けむ（過去の原因推量）

解説：「生まれあひ」連用＋「けん」。「何の宿縁にて（どんな因縁で）」とわけを問う言い方なので過去の原因推量。「どんな宿縁で生まれ合ったのだろう」。

Q70. 答え：む（意志）

解説：「せ」（サ変未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は、あなたのためなら、どんなことでもしよう」。

Q71. 答え：らむ（現在推量）

解説：「見る」（上一段終止形）＋「らん」。見えない所にいる友の今を推し量る。「遠い国にいる友も、この月を見ているだろう」。

Q72. 答え：けむ（過去推量）

解説：「思ひ」連用＋「けん」。「古き世の人と同じく思っただろう」。

Q73. 答え：む（推量）

解説：「立た」（四段未然形）＋「ん」。係助詞「や」（疑問）の結びで連体形。主語が「春」（3人称）なので推量。「雪が解けて、春が立つ（春になる）だろうか」。

Q74. 答え：らむ（現在推量）

解説：「起こす」終止＋「らん」。「風が波を起こしているだろう」。

Q75. 答え：けむ（過去推量）

解説：「言ひ伝へ」（下二段「言ひ伝ふ」連用形）＋「けん」。「何を」は中身をたずねる語なので過去推量。「私の祖父は、何を言い伝えたのだろう」。

Q76. 答え：む（推量）

解説：「おろかなら」（形容動詞「おろかなり」ナリ活用・未然形）＋「ん」。「言ふもおろかなり」は「言うまでもない」という決まった言い方で、ここでの「おろかなり」は「不十分だ（ことばでは言い尽くせない）」の意味。今の「ばかだ」ではない。「言うまでもないだろう」。

Q77. 答え：らむ（現在推量）

解説：「立つ」終止＋「らん」。「海原はるかに波が立っているだろう」。

Q78. 答え：けむ（過去推量）

解説：「なり」（四段「なる」連用形）＋「けん」。「いかに（どのように）」はわけを問う語ではないので過去推量。「あの二人の仲は、どうなったのだろう」。

Q79. 答え：む（意志）

解説：「恐れ」（下二段未然形）＋「ん」＋「や」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「や」は反語。「私が死を恐れようか、いや恐れはしない」。

Q80. 答え：らむ（現在推量）

解説：「焼く」（四段終止形）＋「らん」。見えない浦の今を推し量る。「あの浦の漁師たちは、今夜も塩を焼いているだろう」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：む（意志）

解説：「立たじ」は打消推量「じ」（役に立たないだろう）。「捨て」（下二段未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「何の役にも立たないだろう。私はこれを捨てよう」。

Q82. 答え：らむ（現在推量）

解説：「伏す」（四段終止形）＋「らん」。疑問の語「誰」を受けて連体形で結ぶ（文末なので婉曲ではない）。「誰」は人をたずねる語なので現在推量。「月の美しい夜、（あの人は）誰の寝床に寝ているのだろう」。

Q83. 答え：けむ（過去推量）

解説：「見」連用＋「けん」。「異国の人は何を見たらう」。

Q84. 答え：む（意志）

解説：「揚げ」（下二段「揚ぐ」未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は、武士の道で名を揚げよう」。

Q85. 答え：らむ（現在推量）

解説：「給ふ」（四段終止形）＋「らん」。尊敬は「給ふ」のはたらきで、「らむ」に尊敬の意味はない。「帝はお心を痛めていらっしゃるだろう」。

Q86. 答え：けむ（過去推量）

解説：「給ひ」（四段連用形）＋「けん」。尊敬は「給ふ」のはたらきで、「けむ」に尊敬の意味はない。「いかなる心地して（どんな気持ちで）」は様子をたずねる言い方で、わけを問うのではないので過去推量。「義経は、どんな気持ちで落ちのびなさったのだろう」。

Q87. 答え：む（婉曲）

解説：「愛で」（下二段「愛づ」未然形）＋「ん」（連体形）が体言「人」を修飾するので婉曲。「もがな」は願望の終助詞。「いっしょに花を愛でるような人がいればなあ」。

Q88. 答え：らむ（現在推量）

解説：「待つ」終止＋「らん」。「故郷の親は、今どんなに私を待っているだろう」。

Q89. 答え：けむ（過去推量）

解説：「詠み出だし」（四段「詠み出だす」連用形）＋「けん」。「いかにして（どのようにして）」はやり方をたずねる語で、わけを問う語ではないので過去推量。「業平の歌は、どのようにして詠み出したのだろう」。

Q90. 答え：む（意志）

解説：「紛れ入ら」（四段「紛れ入る」未然形）＋「ん」。主語が「我れ」（1人称）なので意志。「私は、軍勢の中に紛れ込もう」。

Q91. 答え：らむ（現在推量）

解説：上一段「ある」終止形「ある」＋「らん」。「らむ（らん）」は終止形接続が原則。

Q92. 答え：けむ（過去推量）

解説：「語り」連用＋「けん」。「古き世の母は、何を子に語ったろう」。

Q93. 答え：む（意志）

解説：「いかにか」（どのように〜か）＋「せ」（サ変未然形）＋「ん」。係助詞「か」の結びで連体形。心の中のことばの主語は思っている本人（1人称）なので意志（疑問の形）。『『どうしようか』』と思い悩む」。

Q94. 答え：らむ（現在推量）

解説：「思ふ」終止＋「らん」。「暁、鶏が鳴く頃、何を思っているだろう」。

Q95. 答え：けむ（過去推量）

解説：「明かし」連用＋「けん」。「物思いに沈み、夜どおし泣き明かしたろう」。

Q96. 答え：む（婉曲）

解説：「逢は」（四段未然形）＋「ん」（連体形）＋体言「こと」。体言の前の「ん」は婉曲。「あらじ」は打消推量。「このようにすばらしい御代にめぐりあうようなことは、二度とはないだろう」。

Q97. 答え：らむ（現在推量）

解説：「住む」（四段終止形）＋「らん」。係助詞「や」（疑問）の結びで連体形。「紅葉の散る里に、人が住んでいるだろうか」。

Q98. 答え：けむ（過去推量）

解説：「眺め」（下二段連用）＋「けん」。「古き世の人は、どんなに月を眺めたろう」。

Q99. 答え：む（意志）

解説：「仕へ」（下二段未然）＋「ん」。「心を尽くしてお仕えしよう」。

Q100. 答え：らむ（現在推量）

解説：「思ふ」（四段終止）＋「らん」。疑問の係助詞「か」を受けた結びで連体形。「春は花、秋は月、いつをおもしろいと思っているのだろうか」。